

半世紀経て「現役」大成工業が塗装



虹色に彩られたシーソーで遊ぶ園児。奥が長屋社長

7色シーソーお披露目

【音更】音更認定こども園（町新通9、白木幸久園長、園児201人）のグラウンドに設置しているシーソーが、7色に彩られた「しあわせのじいろシーソー」に生まれ変わった。21日にお披露目となり、園児たちがシーソーに乗って笑顔を見せた。

音更認定こども園

園児達が乗り笑顔

シーソーは全長3・7メートルの木製。1968年に旧音更保育園が移転新築した頃に設置されたと思われ、半世紀近く経つことになる。2016年の音更認定こども園の開園と同時に、旧音更保育園から移設された。老朽化に加え、厚板の色落ちなどが目立ってきたため、白木園長が同じ町内会

にある大成塗装工業（町新通11、長屋正宏社長）に相談。偶然にも長屋社長が20年ほど前に厚板を樹脂加工して修繕した経緯があり、「自分にとっても思い入れのある遊具。これも何かのご縁と感じた」（長屋社長）と快く引き受けた。

ももとは水色だったが、7色に「お色直し」。赤色、だいだい色、黄色、緑色、水色、青色、紫色の虹をイメージして塗り替え、1週間で補修作業が完了した。21日には同園のグラウンドでシーソーの除幕式が行われ、年長児43人が参加。園児を代表して櫻井優嘉ちゃん（5）、菅野結愛ちゃん（5）、尾崎琉星ちゃん（5）、湯野瑛太ちゃん（6）の4人が除幕した。白木園長が「すてきなシーソーができました。乗ってる人を思いやって遊んでください」とあいさつした。

続いて中田圭志ちゃん（5）と黒倫太郎ちゃん（5）が「虹色に塗ってくれてありがとう」と長屋社長に礼を述べ、長屋社長が「仲良く楽しく遊んでください」と呼び掛けた。さっそくシーソーに乗って遊んだ小川心結ちゃん（6）は「虹色がきれいで、楽しかった」と話していた。

（小縣大輝）